夕刊
十月九日發行

西鶴が描いた法華文學

山上生

二

今は昔、京都の四條通に枡屋こそ、松本甚右衛門といふ法華氣質の目藥業者があつた。殊に一子相傳。即除苦惱の妙藥「神敎萬病圓」といふ金招牌を掲げて、洛中、洛外に響きわたつた老舗である。

ところで、甚右衛門は最早五十の坂をさへ越した齡であるが、まだ家督を相續させる子供がなかつたので家庭的には恵まれない心寂しい日をのみ送つてゐた。が、さうしてゐるうちに日頃の信心の餘蔭か、思ひがけなくも妻のお登志が姙娠した。で、甚右衛門の喜悦は譬へやうがない。ひたすら妻が安産の日を待つてゐるうちに、彼は不圖した感冒が原因で急死してしまつたのである。

寡婦となつたお登志は、涙のうちに亡夫の五七日忌を迎へた晩、安らかに分娩したが、それは双生見で、しかも玉のやうな男の子であつた。

お登志は、父の顔さへ知らぬ二人の男子を一しほ不憫とおもひ、別々に乳母を傭ひ入れて育てさせ、その名も前に生れたのを梅松、後から生れたのを竹松と命じ、母が後見となつて萬端を切りもりしてゐた。

やがて、二人の子息は十三歳となつた。

その夏、意外にも母親が頓死したので、その跡を見立てる親族もない、たゞ二人の乳母が銘々に、自分が養育した子を守立てゝ後繼としようと競つたのみであつた。それにつけては、双子のことゝていづれが兄として惣領か末子かといふ爭が絶えない。

で、つひに町の年寄衆の意見をさへ肯入れずして、双方から町奉行へ訴訟に及んで、お上の裁斷を仰ぐこととなつた。

その時、この店舗に久しく勤めゐた一人の手代が、枡屋の號を惜むところから、

『爲一、この家を二つに相分けられ候やうにと相成り候はゞ、一家相傳の名方も自然と相分れ申すべく、その儀、家財を分くるよりも如何にも歎かしく存じ候。依つて、いづれにても一人に家を繼がせ、一人相應の藥家を附けて他家へ養子に遣はしたき所存に候間然るべくお捌下したまはりたく願上げ奉り候……。』

と書附を以て、奉行所へ哀願した。

海に生きる

上田生

A

ササザッ、サザザザッ　サザッ
白砂にもつれあふ波の群族
跳躍する波
乱舞する波
押被さり、崩折れる、波の艶姿が、媚めく律調のエレジーが海岡に媚々として擴がつてゆく。
醱醸の、翼よ、線符をたどつて、懐かしい、ロマン的な羅盤の快樂をさほしてくる。
ふ象に狂迫する、炎のやうな素性が、甘くとりついてくる。
ザッザザッ　ザッザッ
ザッ　ザッザッザッ
岩間に純呼たる音響が徇ふ。
遠く、近く、白亜の、岬台が、艶々たる肥體を露呈し。
水平線　受胎する帆舟
スリップし、風が　潑で、大きく孕んだ翼、大空にあがる。
一跳。乳香にただよふ甘さよ。

10月10日

△日本銀行創立開業（明治一五）△桂太郎薨ず年六十七（大正二）

○

人は山嶽と相對する時大事を成す、群集のなかにありては妬心あるのみ　ブレーク

連續講談　異說赤穗浪士（いせつあかほろうし）

別題『異說赤穗義士』『赤穗誠忠錄』

〔28〕

講　桃川若燕
畫　醤城木喬

家臣殉死追腹

『前の戸棚の音を聞け、鼠の騒ぐ音ではない』
『開けて見ろ』
『大野だつたら打ち斬るか——』
『マア待て、大野九郎兵衞につゝら御城代がなるから斬つてはいかん』
『それが第一拙者の氣に入らぬ。何が元老だ、淺野家に仕ゐたのが長いから元老として威張るのか、古くて價値のあるのは根付と石塔ばかりだ』
『竹林、然う怒るな、古いなら古いなりに又お家に對しても功績があると云ふも、マアマア元老であつたら刃は當てるはならぬ』
『に[illegible]開[illegible]見や』
茅野三平[illegible]階[illegible]ると、飛び出し[illegible]たは[illegible]にも十七八になる女
『貴様は誰れだ』
『ハイお助け下さいまし』
『…お取り下さいましては堪らぬ。名前を云へ』
『ハイ、名前はまきと申します』
『ナニ、まきだと、ウーム九郎兵衞の妾だな、好い年をして斯んな若い女を妾にしてゐるなんて怪しからん奴だ』
『コレコレ竹林、そんな女なんぞは相手にするな、此分じは大野は現はれないぞ』
『然うかな』
『殘念だが引揚げる事に致さう、犬の樣な奴に逢はしたところで致し方はあるまい』
『ウム犬を持つてゐたとあつて仕樣がない、茅野引揚げやう』

三人は引揚げる。

翌十七日、大石内藏之助が赤穗籠城を云ひ渡すため家臣一同城中大廣間へ集合を傳へると、千何名あつた家臣僅かに百三十六名しか集まらない、そこで改めて列座の百三十六名に二十三日城中に集まる樣云ひ渡し、二十三日集まつた者を見ると僅かに五十二名、實に忠臣義士と云ふ者は少いもので、大石は江戸表より早打の來て以來と云ふもの一度も我家に歸らず、城内に詰め切つて種々と善後策に心を碎いてゐたが、續々と逃亡する者を見て、ア、賴むまじきは人心、如何に撓季の世と云へ、手を[illegible]せば雲となり、手を覆せば雨となる粉々輕薄な[illegible]に今更ながら慨嘆した。

一方龍野の城主脇坂淡路守安照、備中足守の城主木下肥後守利康の二家は三月十五日付を以て赤穗城受取り方を命ぜられ、目付として御使者荒木十左衛門、御小姓組榊原采女の兩人仰付られ其外代官岡田莊太夫、石原新左衛門の兩人は赤穗城付村々受取御用を仰付られ、日ならずして赤穗へ對して出發すると云ふ通知が來た、これがため赤穗城内は鼎の沸くが如く、近國は勿論のこと江戸表に於いても、赤穗城代大石内藏之助良雄は、必ず赤穗城に籠城して、幕府方と一戰を交へるだらうと云ふ噂とりどり、その内にいや、籠城ではない、大石を初め家臣一同殉死すると云ふ噂が擴まつた。

する、元祿十四年四月十八日、

『冷光院御靈前に於いて殉死追腹を致しく、明正午の刻より死装束着用の上罷り出づべし』

こうした通達が城中から出た。

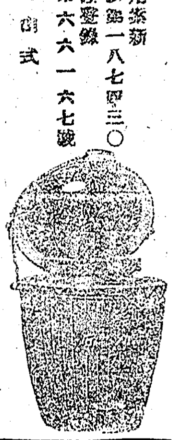
當日になると集まるもの僅かに五十二人、大廣間の正面に冷光院殿の御位牌を飾り供物を供へ、その前に大石内藏之助良雄水色無地の死装束をつけ儼然と控へ一同を見渡すと、

『さて今日各々方をお招き申したのは外でもござらぬ過日内藏之助申し上げたる通り當城を枕に討死致す覺悟であつたが、頼み難きは人心、配分の金子を受取るや何れも妻子を引連れ離散今は赤心の志士僅かに五十二人に過ぎず、此上はお約束の通り冷光院様御靈前に於て切腹致し黄泉にて御奉公を致す心底……』

㊣高　中等學校制服……大特賣
高嶋屋の洋服
男女學生服　新入荷
既製品並ニ注文
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

お醬油は……ヤマフル
味噌　醤油　たひら正宗　鰹節　食品料
壚屋
山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番　本店二七番）
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

金物問屋　和洋銅物
㊅釜屋商店
平市五丁目

實用新案登録第一八七四三〇
意匠登録第六六一六七號
石綿式
石綿ムシカマド
こんな經濟的な「かまど」は他にありません
安價な燃料で濟み、保温力が強く堅牢で火の元絶對安全！、御使用に御便利な！石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、おすゝめ致したい新製品で御座います。


外科一般　内臓外科　性病科　肛門病科
平市南町十四番地（警察署通り角）
木村外科醫院
（藥診療所　平市六丁目）
木村淳
電話三〇九
◎入院應需

看護婦　見習看護婦　募集
經驗の有無を問はず優遇
高柳醫院
平驛前電話三三六

西村屋藥局
電話三番です
藥品百貨と
寫眞機材料の店です
平市本町二丁目
西村屋藥局

これは便利！
△手を荒さず
△絹、毛織物、木綿、スフの生地を傷めず
△つけてたくだけで洗へる
㊇マルミ粉末石鹸
製造元　平市材木町二

◇和文歐文タイプライター
◇最新事務用品類
◇文房具一式
◇製圖並に測量用品
◇謄寫版並に附屬品
平市田町銀座街
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
森藤
電話三七〇〇
振替仙臺五一一番
〔森藤事務用器商會〕

産婦人科
井坂醫院
平市田町　電五五九
見習看護婦入用

開業
内臓外科
整形外科
平市大町二番地
内木外科醫院
醫學博士　内木宗八
（入院隨時）

池ノ坊　生花教授
須藤まつの
生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい
平市四丁目和泉屋旅館

國はニッポン・魚は凍魚
日本水產特約
卸小賣　平製氷會社（電三八・三六）
タヒ　甘鯛
エビ　マナ鰹
白魚　帆立貝柱
冷カヅノコ　ウニ貝燒
ヒノマル凍魚
代理店　四丁目　ト印　魚問屋
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致シマス。

開院
外科一般　内臓外科　整形外科　肛門病科　性病科　レントゲン科
平市南町（平郵便局本局裏通り）
上田外科醫院
院長　上田耕作
電話一二九番

酒　乙な通で
おでん

一般貨物運搬
時代に即應せる新陣容を以て迅速低廉に御取扱ひ致します
福好工業合資會社
代表者　强口唯七郎
自動車部
電話二八二番

小瀧礦泉の涼味是非御出で下さい
割烹　鐵道指定旅館
小瀧
電話小名濱一〇三

雄魂に感謝の祈り。
けふ銃後奉公會總會に於ける
市の戰病歿將兵慰靈祭

新体制の發足、三國同盟の成立に事變下に處する市民の感激一入なるの秋、市銃後奉公會の總會は既報の如く今九日午後一時から市公會堂に於て、決算承認の評議會に引續き市内出身戰病歿將兵の慰靈祭を開辭(伊藤助役)一同敬禮、神式(山部神官外)佛式(遠藤心光師外)祭文(司祭者青沼市長　金光厚相、橋本知事)玉串奉奠、燒香（以上遺族參列者各代表）遺族代表挨拶、一同敬禮の順序で執行、終つて銃後奉公會の總會に移り今後の事業計劃その他に大に時局意識を昂揚三時過ぎ嚴肅敬虔な氣分の裡に閉會したが參列數百名盛儀であつた

外貨獲得に邁進
産業タヒラの一象徴たる
片倉の機構刷新

市の南郊三倉町の一角見るも壯大なる近代的機構を以て産業タヒラを象徴し年々優良なる成績に外貨獲得の一と役を買つてゐる片倉磐城製糸株式會社は企業合同の本体に則り且つは元來その系統を同じうする關係から今回片倉製糸紡績株式會社に併合し同社平工場と改稱新体制一大機構の下に於て吾國蠶糸業の爲益々事業の發展に邁進することとなつた旨新機構下の工場管理人今井岩根氏から此程關係方面へ挨拶を發した

江名小名間にバス停留所

江名小名間のバスは今度ガソリン節約のため同區間に十二ケ所の停留所を新設、今後停留所以外では停車せぬことに決定、十日から實施する

酒値下げ近づく
ビールは昨日來實施
左黨に明るい秋

地方の左黨が近來惠比須顔で待機の姿勢を持してゐた酒、ビールの公定價格中ビールの分は愈よ昨八日の官報で告示され即日實施と云ふ事になつた、これで地方のビールは一本四十八錢と云ふ事になつたが平市内では從來四十七錢五厘だつたので殆ど影響が無く湯本邊は從來より一錢程の値下りで何れ之に伴ふ消費者への響きは皆無と云つて良いが之に比べて甚しく大衆性を有つ清酒は一升から愈轉五十錢の値下げであり嗜好層の日常生活に及ぼす影響が可なり大きいので今回の發表に引續き愈よ近く清酒値下りの番が廻つて來るものと更にその期待を新にし從來の二圓七十錢が二圓二十錢で濟む喉の來月十五日を樂しみ待つてゐる

市郡下三十五軒の
釀造家に影響大
結局期間內に消化か

以上小賣り關係の外醸造元からの卸値だんは來月十五日から二圓七十錢が一圓七十錢に下る關係上醸造元では折角虎の子の樣にしてゐた持ち品をその期日迄に賣つて了はぬと大した算盤の狂ひが來るので各醸造家中には取引きの商店や得意先きの料理屋方面など早く購入を迫る樣なことになるべくこの問題は市、郡下を通じて三十五軒の製造元があり今酒造年度の造高約一萬石中現在酒も相當あるものと觀らるる丈け因て生ずる影響は可なり大なるもののあると看取される

新架設は少い乍ら
電話の値下りは必至
新体制の平市と當局

平局の本年度架設電話は愈よ近日中に發表される模樣であるが時局産業の重點主義による詮衡としてその數も至つて少く、此際一般希望者に均霑せぬは云ふ迄もなく特殊の立場に惠まるる以外は既に夙くも諦めをつけて萬一を僥倖する以外之に多くの期待を持つて居らぬ樣である。斯くして市内電話權は依然殆ど法外の高値を持續すべしとの結論に到達するが、仙遞局では夙にブローカー等の跋扈跳梁に因る遁般の弊害に鑑み、電話の統制値を仙台六百五十圓、青森六百圓、鹽釜五百五十圓に定め漸次他都市にも之を及ぼさんとする意向を持して居り、且既報の如き新体制下に於ける企業合同個人同業間の組合結成等による過剰電話の續出などよりその値下りは此際決して許されぬ想像でなく、市内に於ける最高記錄たる千八百圓も或は近く一場の夢物語りたるではないかとの觀測さるる節が無でもない

六號國道改良陳情
愈よ銃後産業擴充の吃緊事として
青沼市長ら十四日上京

地方産業の發達に因る交通量の激増から近來頓にその必要を痛感されてゐる勿來─久之濱間第六號國道改良事業は青沼平市長以下沿線關係各町村長の兩三年に亘る不斷の熱心な陳情に關係當路の關心を深め乍ら尙は容易に埒明かず、昨今では僅に前年來の繼續事業として平市內郷村大字綴の一小區間が施工されつつあるに止まり、該事業の大局に觸るるに極めて程遠く、地方の産業開發上これ以上の遲延が忍び難い事情に置かれてあるので此際新体制下の英斷によつて該問題の急速展開を望むべく昨今の豫算編成期に處し青沼市長以下關係町村長が來る十四日を期して　內務省土木局及び大藏省方面の關係當路に陳情すると

家庭防空群が汗の勞力奉仕
六七丁目道路修理

市内六、七丁目の家庭防空群中第九群から十八群までの九群では同町北側道路裏が下水の不完備と土橋の腐朽から交通が困難なので此程五日間に亘り毎日一戸一名以上延べ百七十余名が出動、篤志家の寄附材料などで土盛り其他下水清掃など汗の奉仕をした

慰問袋寄託

平第二小學校尋六ノ二組生一同で慰問袋二個をつくり市役所に寄託したが、毎月の寄贈に市當局では感謝してゐる

○。○。○。學校荒し捕はる

勿來町生れ當時茨城縣多賀町下孫土工山形德太郎(二四)は本年八月茨城縣久慈町小學校をはじめ那珂湊日立會瀬等の小學校十數ケ所を荒し廻り六日勿來の飯場で日立署員に檢擧された

肉親の死を秘めて
滅死奉公、二警防團員

防空訓練がすんだ滅死奉公の生き教材——川前警防團員三星衆吉氏(三五)は父磯太郎さん(六六)が、また同村警防團副班長佐藤武一氏(三二)は祖父武治翁(八〇)が何れも死の床についたのを顧みず夫々部署を固守、五日朝相前後して永眠したのを秘して重責を全ふした上枕頭にかけつけたので小野新町署から二人の表彰方を縣に申達した

遺品を賣つて寄附

市内大町猪狩ひさ子は亡父の遺品の一部を賣つて得た金五圓を市銃後奉公會へ寄附

錦の献納運動

錦町各種婦人團体では各戸から蚊帳の釣手六個以上、梅干茶碗一杯、お茶殼などを集め十一日の献納の手續きをとる

陣中を聽く
(857)

古い物ではあるが
內地の映畫も見れる
市內大町出身　長　保彦君(通信)

時下秋冷の候、叔父樣には益々お元氣にてお務めのことゝ思ひ居ります、小生何時も乍ら元氣一杯で活躍して居ります。耐ね難き猛暑も過ぎ去つて清々しい秋となりました。思へば暑い〳〵夏でした。然し今はもうすつかり涼しくなり氣も体も清々しい節となりました。

一天高く馬肥ゆるの候、我亦空腹が覺えるの時です。木の葉もホロ〳〵散り初めました。こちらでは黄色くなつた丈でみな散つて了ふらしいです、あの內地のやうな紅葉は見られません。內地も已に涼しくなつたことゝ思ひます、稲もすつかり頭を下げて了つたことでせう。

今月初め異動により表記の隊へ轉屬致しました、南下すること五十里ばかりもう×支とは云ひ乍ら一番南端です。氣候としては大した變りはありません。

街は以來よりずつと大きくて內地人も相當に移住して居ります、M部隊一番のりの古戰地て「麥と兵隊」の唄で余りにも有名な所です、今では戰火の跡はすつかり消ゑて、町は道路改修建築物の新築を盛んに行つて居ります。

映畫館もあり內地の映畫が見られます、但し平で見るような新しいものは見られません、昨夜行つて來ました、古い映畫でもやはりなつかしいです、見物人は殆んど兵隊ばかりです。

前任地は水が悪いので困ります、生水は絶對にのみません、今では涼しくなつて水も欲しくはありませんが、夏の中は內地の水を稍一杯飲んでみたいと思ひます。

では今日はこれまでにして置きます。御家皆樣お達者でお暮らし下さい　寫眞同封しましたからお受取り下さい。では失禮致します

保彥

公奉後銃─强化週間
あすの行事

十日＝第四日△接遇改善(各業者)△産業指導員、技術員の産業巡回指導△慰問袋、慰問文の募集(市並に婦人團体)△遺烈顯彰展(市と學校)

尙は小名濱町では同日木炭不足の遺家族に對し一俵宛を配給する

銃後奉仕陣容整備
永續性ある

市では右週間を期し從來の如く農繁期に於ける奉仕のみに止まらず永續性のある銃後奉仕の順序、方法、日程などを決めるべく市內勤勞班、青年團、學校婦人團体に呼びかけることゝなつた

銃後醫學講演と映畫

日本醫科大學講演部では來る十六日午後五時から市公會室で銃後の醫學講演と映畫の夕を一般に公開する、講師演題左の如く、映畫はトーキー『母に還る』外數番で多數來會を歡迎すると

△怖るべし性病學生柴正隆△日本民族永遠の勝利は?(人口問題)同渡邊精一△乳幼兒の問題同齋藤正意△時局と學童結核の問題醫博教授長瀬米藏△優生論(如何にして優秀なる子孫を殘すべきか)醫博教授福士政一

赤井村葬

赤井村出身草野淺吉伍長、小野貝一等兵の村葬は來る十三日午後一時から同村第一小學校で執行すると

部落有財産町へ移管

小名濱町の四部落では新体制に即應、懸案の部落有財産(見積三十萬圓)整理統合のためその全部を町に移管したと

盜み。。湯本町入山坑夫某(三〇)は好間村古河炭礦に雇はれ中七月末同僚加藤某のクローム腕時計一個(十二圓)を盗み湯本町で入質費消。川前村田代農松原正(三二)は九月二十三日夜同村佐藤助治方から衣類を窃取何れも平署へ檢擧

送淺野判事榮遷

酒田

珠璽　小野務平

裁判公明凜霜
惜今叙別去吾鄕
酒田山海亦多勝
休沐羨君閑興長

平市慶弔錄

○出生　四軒町五鈴木源七氏四女昭子さん

▲死亡　禰宜町一眞柄榮代子さん(二一)

拈華微笑

新体制發足、三國同盟成立の秋けふ行はるる市銃後會の催し。感激裏に一人

□

在天の雄魂毅魄に感謝の情誰か更に深刻ならざるものぞ。

□

酒の値下げに多く飲んでは何にもならぬ。國債にでも向ける心構へが肝要

□

賣惜しみが一轉賣り急ぎへ、お酒屋さんにも免れなかつた無常迅速

□

蟋蟀唧々、秋漸く深み行く

舊	九月九日
木曜	丙戌　赤口　建　角宿
新	十月九日

▲一白　運動愛のみ多くして先の氣受は却て惡き日▲二黑　一時をつくろふことなく元を正し正し進むべし▲三碧　才をのみたのむときは末遂、鈍物におとるべし▲四綠　此より底なし追々とのぼるばかり氣を勵ませ▲五黄　抄らされども成行きを以て進むが無事なり▲六白　進退ともに損あるもの誤らざれば吉あたり▲七赤　身に活氣と希望の集まり來る日進みて吉し▲八白　不十分なる運氣なる事を自覺し注意すべし▲九紫　金談を除くの外は何事も順調に運ぶべき日

十日
【小名濱測候所觀測】
滿潮　前一〇、五五　後一一、二〇
干潮　前六、二五　後五、〇五

天氣豫報
小名濱測候所發表

今夜　北西の風曇　後晴
明日　北西の風晴　一時曇り

食事。喫茶。酒場を兼ねた
レストラン　サロン
營業時間
開店…午前十時
御食事は午前十一時より
閉店…午後十一時限り
平市銀座街　電話五九二

防火防空銃後のつとめ
資源愛護は火の用心
太陽無機コロイド塗料定價表

塗料番號	色別	容量	價格
一號	白色	一斗罐入	三〇、〇〇
二號	淡鼠色	同	三〇、〇〇
三號	黒色	同	三〇、〇〇
四號	銀鼠色	同	三五、〇〇
五號	國防色(陸軍色)	同	四五、〇〇
六號	濃綠色(海軍色)	同	四五、〇〇
七號	薄空色	同	二五、〇〇
八號	クリーム色	同	四〇、〇〇
九號	綠色	同	四〇、〇〇
一〇號	薄藍色	同	四〇、〇〇
地塗液		二升罐入	五、〇〇
仕上液		同	三、〇〇

(各一罐の塗料面積二十坪ヨリ三十坪)
あなたの御建築物の御保護のために、更に進んで國防的御見地から、是非効力絶大なる太陽無機コロイド防火防空塗料の御使用をお奬め致します
特許專賣　太陽無機コロイド販賣店
カタログ進呈
山田文一商店
平市仲町通り
電話二六二番

簡易金融
小口も歡迎いたします
茨城相互株式會社平出張所(金融業)
綠川喜三郎
假事務所　平市才槌小路四二

吸入用酸素　純度99%
度量衡
モノサシ　マス　ハカリ
計量器
体温器　寒暖計
秤ノ取締 [illegible]
關內藥局
電話四〇番

新刊書籍
月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂　村山書店
平市中央通(驛前通)

醫學士　吉田久雄
吉田眼科醫院
平市紺屋町　電話六八番